



※



照らすは弥陀の

光なりけり

心まで

あきらかなれど

月も日も



寺だより 極楽寺

平成11年12月23日

住職 伊藤慶成



まっちゃんぽんかじのもと!

一口法話

試してみてください。

念佛はあくびのあとの口直し。
なまあみだぶつと申してあこを
ととのえてみましょう!

なまあみだぶつとかみで
なまあみだぶつと飲み入るべし
とは、法然様の食事の時の
おすすりめです。

法然上人25霊場参拝記念



法然上人
25霊場団参の
第1回目は16名
様の御参加を

頂き感激致しました。『瀬戸渡り二十五霊場 初も冬』
(伊藤慶成)

第2回目は平成12年11月27日～29日までを予定しております。
奮って御参加申し上げております。ここに2名様より御寄稿
賜りました。お礼申し上げます。

殿下 川島義一郎様より

『菩提寺と霊場めぐり 偲 晩秋』



極楽寺五十代住職就任記念団参。法然上人二十五霊場巡拝の
旅に参加し、旅の楽しさと宗祖さまを偲ぶ心の洗濯ができた。
『黄葉映え 浄土のおしえ 誕生寺』

法然上人様誕生 伊内への旅立ちの名利。武家の父君は、不意打の
遺恨の刃に倒れ深手のなかで、わが子に仇として追うことを止め
伊内の歩みを遺言したという。武士の世の習わしに怒りされること
なく、憎しみ、恨みを離れる真実を説いた父君、ドラマの様な出家
の動機である。その旅立ちのお手植犬いちようが境内にそびえて
いる。『残り菊 さみしさ偲ぶ 法然寺』

法然寺は、上人さま75才のとき四国に流される。この讃岐に
滞在しご苦労されたときの遺跡である。

日一日とお寒さを加え、いよいよ1999年も後
数日と相成りました。

其の後 御檀家御一同様には益々御壮健にて
何よりお慶び申し上げます。

「光陰矢の如し」と申しますとおり、誠に一年の
才月の流れは驚く様に早く感じた年でした。

お陰様で住職という名前にも慣れあらたな
年を迎えようと致して居ります。

新しい年の門出に、どうぞ皆々様、お揃いで
御参りいただき御本尊様に御挨拶致しますよう。

お知らせ

古いお塔婆等の置き場所が本堂の前のへい際
に出来ました。おついでの際にお持ち下さい。

淨焚回向を致します。ご協力の程よろしくお願い致します。

月例法話 始めました。毎月励行して居ります。
どなたでもお気軽にお出かけお待ち申し上げて居ります

◆ 期日 第4土曜日 午後3時より (於て本堂)

1月1日 修正会 午前9時より

御家族お揃いで御参堂をお待ち申し上げます。



十二区 加藤泰子様 ～ 法然上人を訪ねて～

この度「極楽寺住職就任記念行事」の一つとして
法然上人ご誕生の聖地「製作誕生寺第一番」と
上人が流されて讃岐にいられた折はらく滞在
されたと伝えられる小松庄「讃岐法然寺第二番」
を訪ねる事ができました。

上人産場の井戸。又若き日上人旅立ちのお姿にふれ
胸があつくまりました。上人ゆかりの天銀香は今は盛り
りと天に向って黄葉真只中でした。

(誕生寺御詠歌一番)

巖窟の天降ります縁の木は、
世々に朽ちせぬ法の師の跡)

(誕生寺御詠歌二番)

おぼつかない誰かいいけん小松とは、
雲をささる高松の枝

琴平に泊翌朝 785段の石段を無事のほり朝日を
拝みませ。松山城の天守閣に昔人を偲ぶ。その夜は
道後温泉一泊「村上水軍太鼓」に感激。翌日は
いよいよ「ほなみ海道」瀬戸内海の美しさに眼を
みはりました。2泊3日の旅は法然上人との出逢い
に始りとても有意義な旅でした。
どうもありがとうございました。